

<実践報告>

## 松川中学校における「自問清掃」の導入と展開(2)

—学年合唱への「自問活動」の導入—

古川忠司	下伊那郡松川町立松川中学校
鎌倉正之	下伊那郡松川町立松川中学校
川根一仁	下伊那郡松川町立松川中学校
長沼正博	下伊那郡松川町立松川中学校
土井 進	信州大学教育学部教育科学講座

### An Introduction of “Jimon Activity” to the Chorus of All the Third-Grade Students

HURUKAWA Tadashi : Matsukawa Junior High School, Matsukawa Town, Shimoina District  
KAMAKURA Masayuki : Matsukawa Junior High School, Matsukawa Town, Shimoina District  
KAWANE Kazuhito : Matsukawa Junior High School, Matsukawa Town, Shimoina District  
NAGANUMA Masahiro : Matsukawa Junior High School, Matsukawa Town, Shimoina District  
DOI Susumu : Faculty of Education, Shinshu University

In the last report, I wrote about the introduction of “Jimon Seiso” of Matsukawa Junior High School. In this report, I will write about the activity that all the third-grade students completed. Last year, they had a joint concert with Shimoina Junior High School students using their “Jimon Spirits”. The process of synchronizing and raising students minds, “Jimon Spirits”, was reported in the students’ daily diaries. It is very difficult to practice the “Jimon Spirits” in educational activities. But “Jimon Spirits” made a bond of both students and teachers, when we mutually attained our aims, the activity proved this.

【キーワード】 竹内隆夫 自問清掃 自問活動 自発性 共鳴

#### 1. はじめに

##### 1-1 「自問教育全国実践交流会」に参加して

鎌倉正之校長（「長野県自問教育の会」会長）の指導を受け、心の教育とも言える「自問清掃」に取り組み、3年が経過しようとしている。毎年8月に長野市で開かれる「自問教育全国実践交流会」に参加して、全国各地の学校におけるすばらしい実践に触れ、地道な活動の必要性を再認識した。

本稿では、①平成12年11月10日、松川中学校で開催した「自問教育全国公開研究発表会」への3学年の取り組みと、②古川が担任したクラスにおいて3年間にわたって実践した「自問清掃」「自問活動」の成果について報告する。

### 1-2 合唱活動に「自問活動」を導入した立場の確認

発表当日の指導案にも載せたことであるが、「教科学習に自問を持ち込むことは難しい」と創始者である竹内隆夫も述べている。「自問清掃」はきれいにすることを捨て自らの心を磨くことに専念する活動であるのに対し、教科活動には身に付けなくてはならない学力があり、その修得を捨てて心を磨くことに専念することはできない。また学習指導要領において、指導内容や指導に要する時間などが定められていて、「生徒を信じて待つ」という「自問活動」の大切な心得は実行不可能な状況にあるからである。

そのタブーともいべき課題にあえて取り組んだ理由は、詞や楽曲に関わる音楽指導だけでは、歌おうとしない子供達の心を揺り動かすことができない。また合唱活動は創造の活動でもある。一人ひとりの創造する歌声が集まった時本物の合唱となると考え、それを目指そうと考えた。それには、「一人ひとりの心の磨き」がいる。そこに自らの心に問い、自分を磨く「自問活動」が必要であると考え、3学年合唱に「自問活動」を導入することにした。

さらに、グループ活動を取り入れた意味は、200人近い合唱団においては、互いに支えあえるという利点がある反面、音程・表現などみんなを頼って集団に埋もれてしまうという面もある。そこでクラスの枠をはずして35人程度のグループを作り、小集団の中で自分の声や姿勢を再確認しあえば、集団を支える自分を作り上げることができると考えた。これはそのまま「自問活動」にも繋がっていくと思われる。学級の枠を越えた新たな人間関係は、新鮮な緊張感や期待感を生み、それが、誰もが持っている一人ひとりの自発性を呼び覚ます刺激となる。グループ活動の中で「自分は仲間に迷惑をかけていないか」を自問することで、仲間や教師の説得に共鳴し、歌おうとする情動が生まれるのではないかと考えた。

#### 【活動経過】

	活 動 内 容
9/8	各学級4名のパートリーダーを選び、さらにリーダー会で学年リーダーとして4名を選出して活動開始。
9/11	学年リーダー会（学年集会計画）
9/12	第1回学年集会 ・ 学年リーダーによる会の趣旨説明と群音への決意文発表 ・ CD演奏を聴き、各自群音への決意と曲への願いを書く。
9/13	学年パート別練習開始（教室でオルガン伴奏）
10/2	朝8:10～8:20女性パート男性パート別練習開始（柔道場でキーボード伴奏） 放課後4:10～4:25合唱練習開始（音楽室）

10/3	学活の時間を裁量して学年練習（ステージの並び方）
10/16	学活の時間を裁量して学年練習（ステージの並び方）
10/21	学活の時間を裁量して学年練習（ステージ降壇と歌）
10/24	松風祭音楽会で発表 8:10~8:25女性男性別合唱に戻って練習開始
10/26	放課後4:10~4:25ステージ練習開始 学年リーダー4名に1名が加わってグループリーダーとして活動開始
10/30	グループリーダー会（グループ練習について） 合唱グループによる練習開始（体育館にて学年連絡会をもち、その後第1回グループ練習）
11/2	グループリーダー会（中間学年集会計画）
11/6	中間学年集会 ・代表者による言葉や詩のイメージの発表。自分たちの合唱を録音して客観的に聴く。 リーダーとの打ち合わせ ・リーダーと担当の先生と、10日のグループ練習について打ち合わせ
11/10	全国自問教育研究発表会の当日 ・合唱グループによる活動の発表 ・学年内で練習成果のグループ発表 ・明日の本番を想定して、「アトラクション」での発表 参観者の方からの感想と校長先生からのアドバイスを確認
11/11	郡市連合音楽会での発表
11/20	学年集会で、合唱活動の「まとめの会」を開く ・級長会が主体となって、パートリーダーに感謝を述べ、お互いの努力を認め合った。 ・本番の合唱の感想や今までの活動を思い返しての感想を発表した 今まで取り組んできた「自問の心」を、これからの日常生活にも生かしていけるように、みんなで確認した。

## 2. 学年合唱での「自問活動」の実践

### 2-1 「自問活動」による合唱練習の深まり

#### (1) 当初の生徒の実態

合唱に参加しない生徒が各クラスに数名いたり、大きな口を開けて一生懸命歌う生徒は少なく、とても「心をつにして思いを精一杯表現する」といったものではなかった。

・『今日(10/25)の放課後に「川」の練習を第一音楽室でやりました。初めは伊波先生の指揮で歌ってから、その後は指揮なしで歌いました。先生方は職員会のため途中から居なくなりました。先生方が居なくなっからは、笑ったり、ふざけたりする人が居て、ちゃんと歌えませんでした。前に丸山先生が注意して下さったことを覚えてないのかなあ？自問して欲しいです。』(No.581, A子)

・『放課後(10/25)の歌練習は最悪でした。学年練習でしたが、先生方が居なくなったら、

急に騒がしくなり、何と歌って居る最中でも喋っている人が居た。しかも先に立って進めなくてはいけないパートリーダーの人のの中にも笑っている人が居た。僕も周りの人に注意したけれどダメだった。何かとても嫌な感じだった。明日からの歌練習の時は、そうしたマイナスの気持ちを振り払って精一杯歌いたい。』(No.581, B男)などの感想が生活記録に寄せられ、これらを掲載した学級通信を学年生徒に配布して、生徒の自発性に訴えた。

## (2) 「自らの心に問う場」を設定するための「グループ練習」の導入

グループ練習はクラスの枠をはずし、各クラスの4パート(B・T・A・S)をシャッフルして5グループを作り、各教室において練習するという方法をとった。さらに定期的にパート練習も導入して正確な合唱を目指した。

・『今日(10/31)はグループ練習がありました。クラスの枠をはずして5つのグループを作って歌いました。1回歌った時、男子の声がすごく小さくて、いつもクラスで歌っているのと違って歌い辛かったです。他のグループから大きな声でいいハーモニーが聞こえてきて、「いいなあ!」と思い、私ももっと声を出そうと思いました。このグループでもっといい合唱になればと思います。』(No.584, C子)

・『昨日から、クラスの各パートが別々のクラスに行って5つのグループを作り、「川」を歌う練習が始まりました。私はアルトで、4組に行って歌っています。私が歌っていて感じたことは、他のクラスの男子の声は小さいなあということです。もっと気働きをして歌ってもらいたいなあ。声がしっかり出るようにと工夫してグループ練習を取り入れて居るんだから、もっと精一杯歌ってもらいたいと思います。私ももっとしっかり声を出して他のパートを支えられるように頑張りたいです。』(No.584, D子)

・『今日(11/10)川根先生が歌を練習する時に、なぜグループに分かれて練習するのか話してくれました。それを聞いて、「ああ!」と思いました。「少人数で練習すると、自分の声をしっかり自覚できて、自分が全力で声を出さないとという気持ちになるから」だそうです。全体で歌うと時々みんながいるからと頼ってしまうことになりがちなので、グループ練習をしている時の思いを忘れないようにしたいです。』(No.589, E男)

### ①グループ内での工夫の例

・『今日(11/9)は全校音楽で全校の前で成果を発表して、その後でグループ練習をしました。今回のグループ練習は、僕たちのグループではみんなで考えて、初めて丸く円になって歌いました。僕は女子の隣になってしまったのでうまく歌えたか不安だったけれど、みんなの歌っている顔がよく見えて、他のパートの声も聞けてとてもいい方法だと思いました。練習できる時間も後わずかなので頑張りたいです。』(No.589, F男)

### ②パートリーダーの工夫の例

・『今日の道徳の時間に、郡音に向けての学年集会がありました。僕はパートリーダーとして歌詞の意味を調べました。みんなに作詞者の気持ちを少しでも分かってもらえるように「わくらば(病葉)」＝「枯葉」を持ってきて、みんなに見せてあげました。山

岸先生も「ヨシキリ」の鳴き声を聴かせてくれました。みんな詞の内容を分かってくれたと思うので、しっかり感情を込めて歌って欲しいと思います。』(No.587, G男)

### (3) 自分たちの歌の録音を聞いて、見返す場の設定

自ら課題を見つけ、その克服に努めようという各人の願いが「共鳴」する。

・『今日(11/6)、1時間目の道德の時間に、「川」のステージ練習がありました。初めて自分たちの歌声を聞きました。歌っている時はいいなあと考えていたけれど、録音したのを聞いてみると、何か自分の抱いていたイメージと全然違いました。出だしがハッキリしなかったり、言葉がハッキリしていなかったりと課題がいっぱいです。11/11(土)には本番の郡音が待っています。気を引き締めて、課題を克服できるように頑張りたいです。』(No.587, H子)

・『今日の道德の時間に郡市連合音楽会に向けての学年集会があった。自分たちの歌声を録音してそれを聴いてみたら、出だしがバラバラで、テナーやバスの声が小さく感じた。郡音の本番まで後4日。課題を解決できるように真剣に練習したい。』(No.587, I男)

### (4) 鎌倉校長の直前のアドバイス

・『今日(11/10)全校の前で「川」の発表をしました。今回は文化祭の時と違い何も緊張せずに歌えました。今日の歌は私的には80点。後は校長先生がアドバイスをして下さったように「言葉をハッキリ！」そして「感情を込めて！」・「酒井先生の指揮をしっかり見て！」歌いたいと思います。明後日は郡音で最後の発表の場となります。明日の自問の研究会ではしっかり歌って、郡音の本番に向けて自信を付けていきたいです。そして100%の歌を発表したいです。』(No.589, D子)

## 2-2 郡市連合音楽会で発揮された成果

### (1) 「自問教育全国公開研究発表会」でのアトラクション

・『今日は全国の先生方が僕たちの授業や清掃を見に来られました。公開授業は、学年が5つのグループに分かれて、「自問の心」で歌練習に取り組む姿を見てもらいました。清掃は結構緊張してしまって、いつものように気働きができませんでした。だって何人もの先生方がずっとビデオを撮っているんだから。だけど、全国の先生方に松川中学のこと・3年2組の事を知ってもらえて良かったです。』(No.592, J男)

・『今日(11/10)は自問教育の公開授業があった。県外や県内から大勢の先生方が来て下さって、「川」という歌のグループ練習や自問清掃の様子を見学して行かれた。写真やビデオを撮っていく先生もおられて、すごく恥ずかしかった。じっくりと見られていると、何となくやり辛かったけれど、今日はしっかりと自分を見つめて清掃に取り組んでいる所を見てもらえて良かったです。それに、明日の郡市連合音楽会の直前で、アトラクションとして発表の機会を得ることができ、素晴らしい仕上がりでとても良かったです。明日の郡音がとても楽しみです!』(No.592, D子)

### (2) 郡市連合音楽会での発表

・『今日(11/11)はいよいよ郡市連合音楽会です。今までパートリーダーを中心に毎朝・毎夕のように練習してきた「川」を、各学校の前で発表する日です。午前中は上郷小学校で群展を見ました。午後はいよいよ本番の発表です。僕達松川中学校は最後の「とり」で、思いっきり歌えました。それになぜか自然に声が出ました。今回は今までで一番良く歌えました。それに歌い終わった後に頂いた講評にも「とてもすばらしい！」と書いてあったので、これまでの努力が報われました。とてもいい郡音だったと思います。』

(No.590, K男)

・『今日はいよいよ郡音です。少し緊張していましたが、他の学校の歌を聴いていると、うまいなあと感じるところがたくさんありました。私達の歌声は、どんな感じに聞こえるのかなあと思いました。なんだかアッ！という間に私達の番になったような気がします。本当にこれで最後なんだと思いながらステージに上がりました。174人みんないると思うと全然緊張しませんでした。だからいつも通りに歌えました。こんなにすばらしい歌に仕上がって、本当に良かったと思います。歌い終わった後はすごくうれしかったです。この学年で良かったと実感しました。174人のみんなまで歌えて、本当に満足しました。』

(No.590, C子)

・『今日は郡音の当日でした。私は昨日の夜すごいドキドキして、何か落ち着かない感じでした。楽譜を何回も見直して、気を付けるところとかチェックしました。今日も使わないけど楽譜を一応松中バックの中に入れておきました。そうすると何かうまく歌えるような気がしました。自分達の歌う番が来るのは、すごく早く感じました。歌っている時に、今まで練習してきた時のこととかを、次々と思い出しました。それで、「こうやってみんなで歌うのも、後卒業式だけか・・・」と思うと、何かとても寂しい気がしました。だからこそ「今日、この時に思いっきり歌おう！」と思って、今までの練習のすべてを出せるように頑張りました。今までで最高のできでした。帰り道、夕日がすごくきれいで、その中を歩きながら、「すばらしい歌が歌えてうれしかったけれど、終わっちゃってとても寂しいなあ」と思いました。』 (No.590, L子)

### (3) パートリーダーを引き受けたG男の生活記録

・『今日はいよいよ郡音の当日になってしまった。僕ができることなら、この日が来てほしくなかった。何となくそう思っていた。第1部の8番までの学校が終わっていき、「聞こえる」を聴きながら松風祭の閉会式を思い出して、「時の旅人」を聴いて2年生の時の文化祭でクラスで歌ったことを思い出した。2組が音楽会で歌った時の方が、上手に歌えていた感じがした。第2部が始まり、だんだん僕の心が「ドクン、ドクン」と鳴り始め、手には汗をかき始めました。まだか、まだかと待っていると、「15番、松川中学校、川・・・」と呼ばれたので、僕は「松川中学校、起立！」と号令をかけ、ステージに上がりました。そして演奏曲「川」の紹介があって、歌が始まりました。男性パートの「Hum～」からきちんと入れました。僕は頭の中で「この発表で最後なんだ」と思いながら、ずっと歌っていました。歌っている時間がとても長く感じました。歌い

終えてステージから降りる時、「これで僕達パートリーダーの仕事は終わってしまい、何だかすごく悲しいなあ」と思いました。「もっと続けてやりたいなあ！」と思いましたが、もう終わってしまいました。

僕がパートリーダーを引き受けることになったきっかけは、ジャンケンです。パートリーダーを決めるため仲間でジャンケンをして僕が負けたので、やることになりました。それは第1回パートリーダー会があった時に、ソプラノ（S）パートからは1組の人、アルト（A）パートからは5組の人、バス（B）パートからは3組と4組の人と決まっていたので、「テナー（T）パートはじゃあ2組かなあ！」と山岸先生が言ってくれたことでジャンケンとなり、僕がテナーパートのパートリーダーをやることになりました。僕は少し悩んだけれど「やります！」と答えました。それが始まりでした。山岸先生の言葉がなかったり、ジャンケンで勝っていたらリーダーになっていませんでした。その時は悩みましたが、今では山岸先生とジャンケンに感謝しています。

「見返しカード」や先生が配ってくれた学級通信やプリントを見ていると「自問の心」で自主的に練習に取り組んできた時のことが甦ってきました。学年集会の計画をパートリーダーで考えた時は大変でしたが、仲良く協力できて良い思い出になりました。今までパートリーダーとして頑張ってきた気持ちを、これからの生活に生かしていきたいです。最後に僕達に協力してくれた3年生のみなさん、支援して下さった山岸先生・伊波先生はじめとする先生方に心からお礼を言いたいと思います。みなさんのお陰で、満足のいく歌を歌い上げることができました。本当にありがとうございました。』（No.590, G男）

### 3. 学年合唱への「自問活動」の導入についての考察

上述のことから明らかなように、生徒は指示されたこと（技術指導や心情的指導）に対して、自分がどう受け止め、どのように歌に生かしていくかを、自分に問いかけることができている。そして、それが原動力となって、自発的に歌の練習を行うことができたと考えられる。とりわけ最初はリーダーを引き受けるべきか悩んだA君が、発表が近づくにつれて意識が高まり、前向きに取り組めるようになった自分に満足をし、それを方向付けてくれた周囲に感謝している姿は、自らに問う心の芽生えを象徴していると思われる。従って、それを「一人ひとりの心の磨き」の実現ととらえれば、学年合唱の成功は「自問活動」の導入の成果であるといえよう。

しかしながら、どういうことができたときに、生徒の内面の向上がなされたと判断（評価）するのにはきわめて難しい。その難しい判断（評価）に基づいて、次の実践への橋渡しを常に考えていかないと、活動はマンネリ化を招くことになる。これが今後の大きな課題である。

今回の学年合唱においてまだ合唱に参加できない生徒が存在したことは、教科活動への「自問活動」導入の一つの限界を示すものと思われる。ただ、合唱リーダーの生徒が、

郡音終了後に全員の前で涙を流し「これで終わりにせずに、もっと歌い続けていきたい」と言ってくれたことや、私達教師も、全国自問発表会のアトラクション・郡市連合音楽会ともに生徒といっしょに歌いたいと切に願い、生徒と共にステージに登壇したことは、「生徒と教師の枠を越えた 共感（シンクロニシティ）の芽生え」と捉えることができ、さらに期間をかけて続けていけば、歌えなかった生徒へも共感の輪を広げることができるものと思われる。

#### 4. 3年2組の「自問活動」の取り組みとまとめ

##### 4-1「自問清掃」の取り組み

教室で身支度を整え、着席して心を落ち着かせ、美化委員の号令によって「自問清掃」を開始するというスタイルを続けてきた。着席して「沈思黙考」し「自問」できる準備ができた生徒は、清掃の15分間を「心を磨く時間」にすることができた。しかし、1分ほどの着席の時間に心を鎮めることができなかつた生徒は、班ごとに分担場所へ移動する時などに、「お喋り」をしたり「気働き」ができないということになってしまった。従って、授業終了から清掃開始までの準備の時間に、「自問」できる心の準備をきちんと行わせることが「自問清掃」の鍵になるとと思われる。卒業間近の生活記録の中に、竹内隆夫のいう自発性の存在を感じさせるものがある。

『今日の掃除は、とても集中してできました。この学校をきれいにできるのも後少ししかないと思ったら、自然にやる気が湧いてきて、いつも以上に集中してできました。卒業までに残された日も、今日のように取り組みたいです。』（「梨花」No.668, L子）

##### 4-2 テスト予想問題集『希望』の実践

1年の1学期期末テストから、各班ごとに教科を分担してテスト予想問題集『希望』を作成してきた。当初は担任からの提案であったが、正副ルーム長を中心に制作に取り組み、教科担任に範囲を聞いて、持ち寄った参考書や問題集から問題を作成した。そして、テスト3週間前には原稿が完成し、担任に提出された。担任はそれを印刷するだけで、生徒が綴じ込みまで完成し、お礼の意味を込めて教科担任の先生方にもお配りすることができた。この活動で、クラスの学力向上はもちろん、クラスの固い絆が作られ、それが自発性を共鳴させて活動を継続させた。活動場所は町立図書館や友の家であり、保護者の方々の御理解と支えがとても重要であった。また、「子ども達の活動を目前で確認することができ、親子の会話にも大きく役立った」と保護者の方から御意見を頂いた。

##### 4-3 総合学習での自発性の発揮

総合学習では①百人一首研究班、②クラスビデオ製作班、③インターネット班、④クラスマッチ優勝班に分かれて活動した。①百人一首研究班は、担任のアドバイスをきっかけに大阪市立大学名誉教授の林直道著『百人一首の世界』を参考に、「百人一首の一首ずつがジグソーパズルの様に1枚の絵を表している」ということを実証し、文化祭の



クラス展示で発表した（合本「梨花」第3号資料参照）。あわせて新年の百人一首クラスマッチにむけて独自の暗記プリントを作成し、一人50首を目指して暗記した。その結果三連覇を達成し、個人優勝（L子64枚獲得）も果たした（「梨花642号」参照）。これにより、クラス経営における大きな絆の実現が果たせた。

#### 4-4 学級通信『梨花』を通しての共鳴

3年間で674号毎日発行した学級通信『梨花』は、生徒一人ひとりの素直な気持ちを綴ったものであり、毎日生活記録に思いを書き続けてくれたことも自発性の現れである。そのことは「梨花661号」のL子の文章に滲み出ている。

『今日(2/18), テスト勉強の合間に1年と2年の頃の「梨花」の冊子を読みました。今思うと恥ずかしくなるようなことも書いてあったけれど、忘れていた気持ちを思い出させてくれました。その時私は、この冊子はこれから私たちが生きていく上で、きっとすごく支えになるものだと思います。私達の成長の足跡がきちんと記されていて、苦しい時や悲しい時に私たちを支えてくれる気がしました。今まで1日も欠かさず、生活記録に書かれた思いを、『梨花』として毎日出し続けてくれてありがとうございます。これから先卒業しても、私は『梨花』によって、クラスのみならず結ばれているんだなあと思うと何だかとても嬉しくなりました。本当にありがたいことだと今日改めて感じました。』と。

さらに「梨花662号」でM男が、文集作成に寄せて、友との出会いに感謝する気持ちを綴っている。

『今日(2/19), 「梨花」の合本第3号に載せる写真集にみんなでコメントを書いた。写真1枚1枚を眺めていると、その時々思い出が浮かんできた。すばらしい仲間と過ごせたからこそ、こんなにも多くの良い思い出ができたんだと思う。だからみんなに会えた偶然とか神様の思し召しというのは、とても有り難いものだったと感じる』と。

また、共鳴は生徒にとどまらず、保護者の方々にも広がり、通信に寄せられた保護者の方々の感想や生活記録へのコメントも担任と心を同じくする内容であった。そのことが「クラススキー、マレットゴルフ大会、担任の家でのクラス合宿」など親子のレクリエーションを活発にし、クラスの「絆」をいっそう強めることになった。

#### 4-5 高校入試での互いの絆の再確認

推薦入試を受験した仲間の合格を、一般受験の生徒が素直に喜び、また3/21には全員の合格をみんなで願うことができた。

・『今日(3/5), 帰りの学活の時に忠ちゃんが、みんなにN子さんの推薦入試合格の話をしてくれました。同じクラスの仲間としてすごくうれしかったです。3年2組では、これで9人の合格が決まっています。3/13には残り的人全員に頑張ってもらいたいです。それから、教室内の片づけが始まっていますが、今までお世話になった校舎に、ありがとうの気持ちを込めて、きれいにしたいと思います。』（「梨花」No.670, A子）と。

生徒のそうした絆に共鳴して、担任も全員の合格を願って「手作り御守り」を1人ひ

とりに作り，全員が心を一つにして入学試験に臨むことができた。

・『先生，今日は御守りありがとうございました。先生が僕たちの合格を祈願して「時又の裸祭」に参加して，雪の中天竜川に入ってくれたことを聞いて，本当にうれしかった。この御守りが有れば必ず受かる気がします。』（「梨花」No.670，K男）と。

そして3/21の発表の日には，クラス35名全員が志望校に合格でき，梨花のごとく満開の花を咲かせることができた。

## 5. まとめと今後の課題

上述の生徒の真情こそは，鎌倉正之校長の熱意に導かれて松川中学校の全教職員が取り組んだ「自問清掃」によって，生徒の自発性が触発された姿であると思われる。松川中学校での3年間にわたる「自問清掃」「自問活動」の実践によって，個人差はあるが，生徒一人ひとりが自らの心に問うて主体的に行動するという，人として大切な生き方を身につけてくれたものと信じている。「自問活動」は各人の日々の努力によってなされるものであるから，誰でもその心掛け次第で実践できるものであり，深められるものであると思う。そういう意味で，中学校の3年間だけに終わらせず，生徒にとっても教師にとっても，生涯にわたる自己形成の中で取り組んでいくべき課題であるといえよう。

### 【引用参考文献】

竹内隆夫（昭和63年）『自らに問うということ－中学生への提言－』北信ローカル社（長野県中野市）

竹内隆夫（平成3年）『自問活動のすすめ－自らの生き方を問う子どもたち－』第一法規（東京）

竹内隆夫（平成4年）『自問教育のすすめ』第41回読売教育賞報告書

竹内隆夫（平成7年）『自問活動への手引き 新たな発想による清掃活動－人としての成長を願って－』日本教育新聞社（東京）

沼田裕之（平成10年）「日本的な言葉を使わない教育の実例」（pp.148-176）『国際化時代日本の教育と文化』東信堂（東京）

船井幸雄・七田真（平成8年）『「百匹目の猿現象」は右脳から』KKベストセラーズ

古川忠司（平成11年）『「梨花」 1号～225号 松川中学校1年2組の歩み』

古川忠司（平成12年）『「梨花」 226号～450号 松川中学校2年2組の歩み』

古川忠司（平成13年）『「梨花」 451号～674号 松川中学校3年2組の歩み』

（2001年3月31日 受付）